

災害時の

聴覚障害者支援

聞こえない・聞こえにくいってどんなこと？

1. 地域の中で孤立しがち

地域社会では耳の聞こえない人も一緒に生活をしています。しかし、皆さんの声が聞こえないためコミュニケーションがとりにくく、地域の中で孤立してしまいがちです。

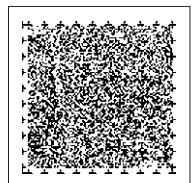
皆さんの配慮によって、情報から取り残されることなく行動ができます。聴覚障害者が安心して暮らせるよう、ご協力ください。



2. 情報が入ってこない

私たちは耳から聞こえてくる声や音で情報を得ていますが、聴覚障害者にはそれが聞こえません。また、情報が出ているかどうかもわからないことがあります。

聴覚障害は、外見だけではわかりません。災害発生時に情報が得られないことから状況判断ができず、適切な行動がとれない場合があります。まわりの人からの積極的な情報提供があれば、正しく判断し行動することができます。



いろいろなコミュニケーション方法

1. 筆談

- (1) 文章は短く、簡潔にお願いします
- (2) 「いつ」「どこで」など、箇条書きで書くと伝わりやすくなります

2. ^{こうわ}口話・^{どくわ}読話

- (1) はっきり口を開けて、普段のはやさで話してください
- (2) 「食事が」「届きました」のように文節毎に区切って話して下さい



■ 筆談



■ 口話・読話

3. 身ぶり手ぶり

- (1) 自分なりに工夫した身振りでも通じることがあります
- (2) 表情をつけるとわかりやすくなります
- (3) 方向、対象物を指し示すとわかりやすくなります
- (4) 数字を指で表すとわかりやすくなります

4. 手話

- (1) 表情、手、腕、全身を使った、ひとつの言語です。



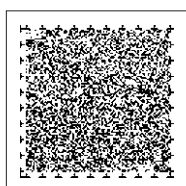
■ 身振り手振り



■ 手話

5. 機器(補聴器など)の使用

- (1) 補聴器や人工内耳を使っている人は、まわりに騒音があると聞こえにくくなりますので配慮して下さい。

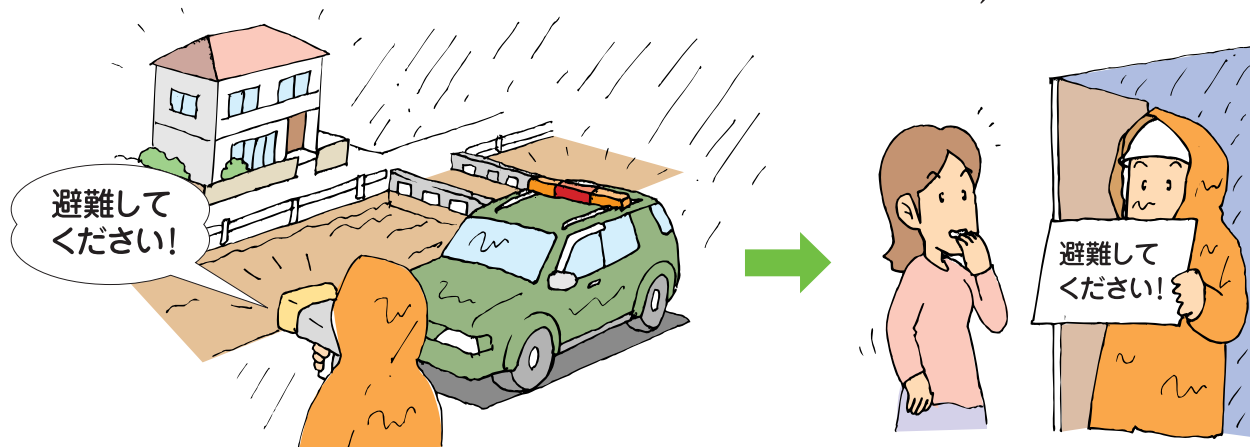


支援方法

1. 聴覚障害者は音や声による情報が伝わりにくい

地震などの災害時には、声や音での情報が正しく伝わりにくく、生死に関わる事にもなりかねません。

- (1) 警報・同報無線・広報車や呼びかけが伝わりません
 - (2) ラジオ・テレビの音は聞こえません
- } 書いて
} 伝えて下さい



- (3) 電話はできません

聴覚障害者から電話を頼まれたら、
かわりに電話をして下さい

〇〇さんの代わりに
電話しています。…



- (4) 家が倒壊して下敷きになったら助けを呼べません(救助が来てもわからない、呼びかけが聞こえない)

聴覚障害者が住んでいる家がわかっていれば、安否を確認して下さい



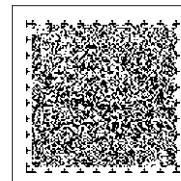
音声以外の方法でも伝わる
工夫をしてください

グルグルまわす



点滅させる

夜間は懐中電灯の光で
わかる場合があります



2. デパートや駅での放送は聞こえません

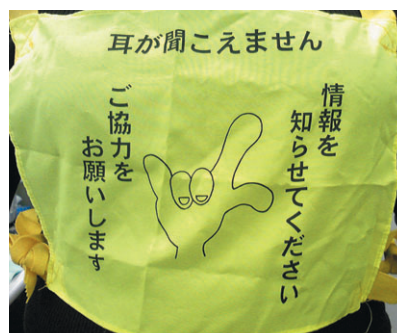
正確な情報を張り紙やホワイトボードに書いて、よく見えるところに掲示して下さい。聴覚障害者だけでなく、放送を聞き逃がした人や年配者にも役立ちます。



3. 避難所では聴覚障害であることを自ら示している場合もあります



■ ハンカチ



■ ゼッケン



■ 名札

ぜひ、呼びかけやお知らせ・放送の内容を、まわりの聴覚障害者に知らせて下さい。

静岡県の市町には、聴覚障害者からの依頼をもとに手話通訳者や要約筆記者を派遣する制度があります。

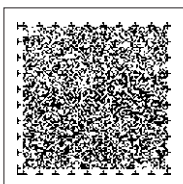
問い合わせ先

- ・ 市町障害福祉担当課
- ・ 静岡県聴覚障害者情報センター

静岡市葵区駿府町1-70静岡県総合社会福祉会館5階

電話054-221-1257 FAX054-221-1258

URL <http://www.e-switch.jp/szdi-center/>



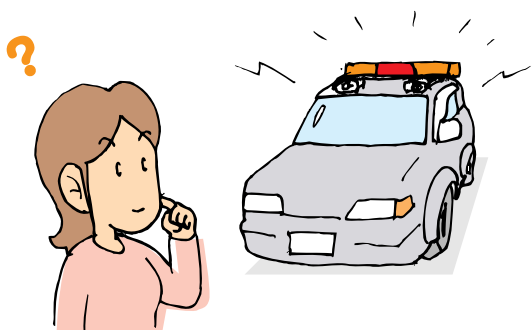
制作 静岡県聴覚障害者情報センター

こんな危険や不便があります

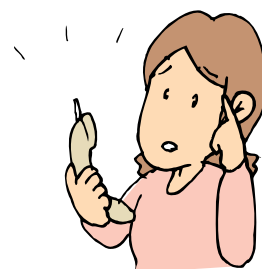
音や声での情報は伝わりにくい

地震やその他災害の時に、声や音の情報が正しく伝わらないと、生死に関わる事にもなりかねません。

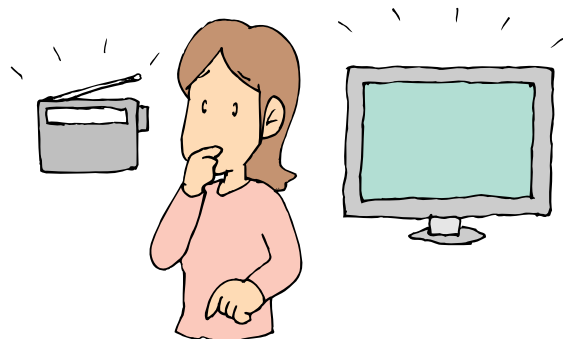
同報無線、広報車等の
情報は伝わりません



電話もできません



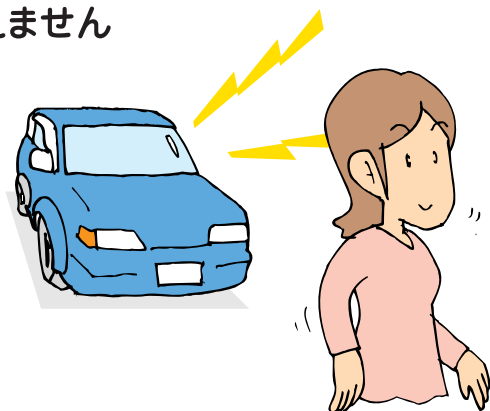
ラジオ・テレビも聞こえません



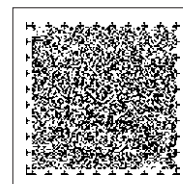
後ろから呼びかけてもわかりません



クラクション・サイレンも
聞こえません



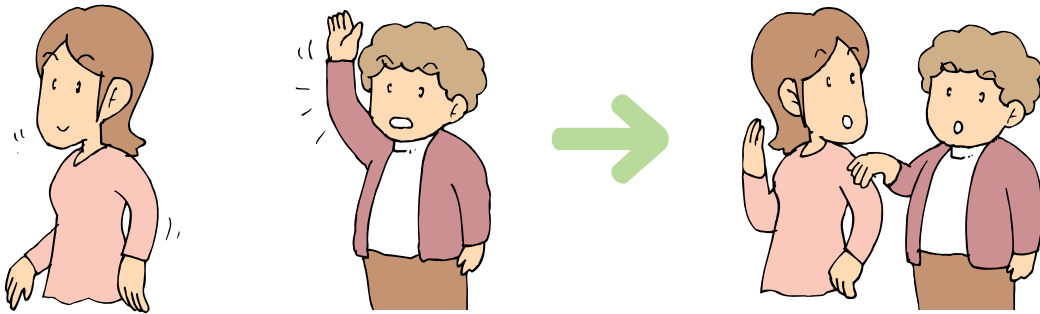
寝ている時は特に深刻です



コミュニケーションのとり方は

話しかける時は

優しく肩をたたき、目が合ってからコミュニケーションをとって下さい



補聴器をつけていてもわからない時があります

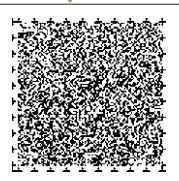
- (1) はっきり口を開けて、普段のはやさで話してください
- (2) 「食事が」「届きました」のように文節毎に区切って話して下さい



耳の聞こえない方は音声によるコミュニケーションが難しいので、正しく伝わるよう目で見てわかる工夫をして下さい。

耳の聞こえない方は、外見ではわかりません

聞こえない方は見ただけでは、その障害がわかりません。しかし、声による会話でのコミュニケーションがうまくとることができなかつたり、耳からの情報が入らないと、状況判断ができなかつたり、誤った行動をとることもなりかねません。相手の聴覚に障害のあることがわかった時は、まわりの方が積極的に情報を伝えて下さい。そうすることによって、正しい判断や行動をとることができます。



盲ろう者に対する支援

盲ろう者とは

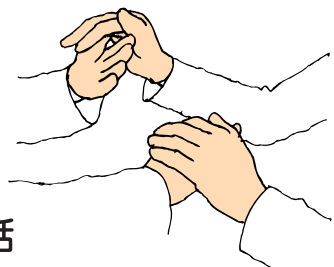
視覚と聴覚の両方に障害を併せ持つ人のことです。
視覚と聴覚の状況によって大きく以下の4つに分けられます。

- ①全盲ろう (全く見えず、全く聞えない)
- ②全盲難聴 (全く見えず、少し聞える)
- ③弱視ろう (少し見えて、全く聞えない)
- ④弱視難聴 (少し見えて、少し聞える)

盲ろう者のコミュニケーション方法

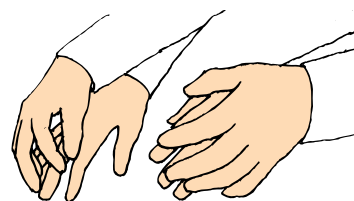
障害の状態や、盲ろう者になるまでに習得した技能により盲ろう者それぞれが使用するコミュニケーション方法は異なります。

	使用する感覚		
	触る	見る	聞く
手話をもとに	触手話	弱視手話	
指文字をもとに	ローマ字式指文字		
	日本語式指文字		
点字をもとに	指点字		
	点字筆記		
文字をもとに	手書き文字	墨字筆記	
音声をもとに			音声



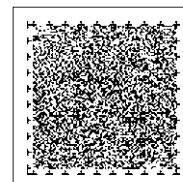
☆触手話

盲ろう者が相手の手話を
直接触って読み取る



☆指点字

盲ろう者の6本の指を点字タイプの
キーに見立てて伝える



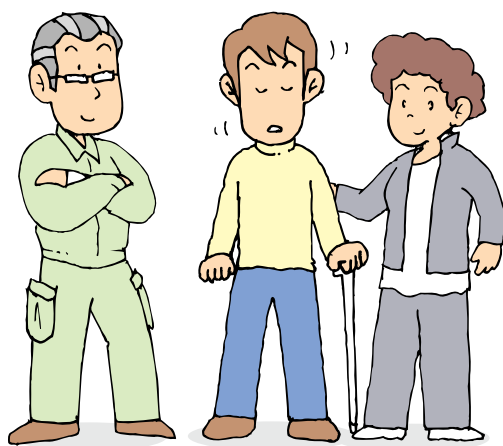
盲ろう者に対する支援

私たちにできる支援

視覚と聴覚に障害があるため、テレビやラジオ、防災行政無線の音声、広報車の音声、呼びかけなどが伝わりにくいため、火災が発生したり、閉じ込められたりした場合でも、被害の状況がわかりません。

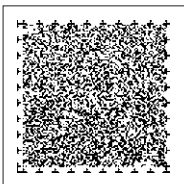
また、盲ろうの人は、個人ごとにコミュニケーションの方法が大きく異なりますので、日ごろから、災害が発生したときの情報伝達や避難誘導を、誰が、どのような手段を用いて行うのか本人と話し合っておきましょう。

避難場所では、避難所で生活するために必要な情報を本人にあったコミュニケーション方法で提供し、確実に本人に伝わっているか、常に配慮しましょう。



地域からの働きかけ

災害時の対応が困難な人のために、避難支援計画を作るなど、隣近所など地域のみなさんが支援体制を整えておき、近所の高齢者世帯や障害のある方の世帯の情報把握に協力し、情報提供・日ごろの備えなどの協力ができるようにしておくことが必要です。普段から積極的に働きかけて交流をはかり、相談先や連絡先を決め、いざというときは、遠慮なく援助を申し出てもらうよう伝えておきましょう。



制作 静岡県聴覚障害者情報センター